会員の皆様へ
コロナウイルス感染症の拡大に対処する奈良県知事の会見は、会見後に奈良県ホームページに
動画と会見資料が配信されます。けれども、字幕や文字によるサポートがありません。
奈良県中途失聴・難聴者協会の賛助会員のご尽力により、文字起こし文をつけることができました。
内容を忠実に文字に変えてもらっていますが、マイクの調整具合などの関係で、聞き取りにくい部分が
あったり、話し手が、曖昧な単語を使ったり、指示語を多用したりすることで、聞こえる人でも、
内容の理解がむずかしい部分もあります。
そのような部分は、文字起こし文も読みにくくなっていますが、現時点でのできる限りの対応であります
ことをご了承ください。

司会／知事定例記者会見を始めます。
本日は発表案件 1 件、報告案件が 1 件あります。

(コロナ関連以外は省略します)

司会／では、報告案件にうつる。
「新型コロナウイルス感染症対策の新たな展開について」、よろしくお願いします。

知事／お手元の資料の題は、「新型コロナウイルス感染症対策の新たな展開について」です。
目次に、（タイトルの）意味を表現している。
大阪府で、新たな感染が拡大しているので、奈良県でもさらなる注意が必要だと本部で確認をしている。
二つ目（の項目）はワクチン接種の早期展開。
これと感染症拡大の抑止が、今の一番のメインだとなっている。
医療提供体制のバックアップとの三つを（ここに取り上げた）。
この中で新しいものは 1 だけだが、これらを対策会議で確認をしたので報告する。

3 ページ以降は、大阪府での新たな感染拡大の様子です。

4 ページ
第 4 波のときの上がり方が、急速だった。
また大阪が上がって、奈良が引きずられたが、当初は、勾配がこんなに急になるとは予想できなかったので、
びっくりした。
3 波のときの上がり方は、やや緩やかだった。
そのため、4 波の急な（上がり方）が予想できなかった。
最近は、大阪の上がり方の勾配が、第 4 波のときと似ている。
だから大阪府知事は、これを第 5 波と呼び始めているような気もする。
奈良県でも、第 5 波に注意をという気持ちがある。
5 波かどうかは、落ち着いて定義しないといけないが。
第 5 波の危険性が、第 4 波に類似しているというのが一番の懸念だ。
グラフを見ると、大変心配になってくる。
増加の兆しかどうかが、気になる。

5 ページ
大阪府の 10 分の 1 ペースで感染症が発生するのが、奈良県の特徴だ。
10 分の 1 を超えた場合と下がった場合がある。
6 月 14 日から 6 月中は奈良県が 10 分の 1 を超える状況だったので、局面が変わって 10 分の 1 原則から離れていくのかと心配をしていた。
ところが 7 月に入ると、前半は上がったり下がったりとまぜこぜになっているが、奈良県が 10 分の 1 原則を超える状況でもなくなってきた。
ところが、7 月 14 日以降は、大阪が奈良の 10 倍を上回る日が増えてきた。
フェーズを 3 つに分けると、明らかに違ってきているのがわかる。
大阪が伸びると奈良が引きずられて伸びるのが第 4 波の傾向だったので、今、その傾向が出ているのではないかと、大変心配している。
この資料から、大阪が伸びて奈良が引きずられる危険性があり心配だということを理解してもらいたい。

6 ページ
奈良の、前週同曜日比較です。
検査の数や体制が違うので、前週同曜日を比較した。
前週同曜日よりも上回っているのが、赤の一重丸。
さらに上回って 2 倍以上の日が二重丸。
最近では二重丸の日が増えてきているので、心配です。
奈良県の、2 倍になった二重丸の日が増えてくると大変心配だ。

7 ページ
大阪は最近では、前週同曜日を上回る日が連続している。
大阪は数が多いので、2 倍以上の二重丸はなかなかつかない。
それでも量は相当多い。
連続して同曜日を上回るのは、大阪としても心配だが、奈良県にとっても心配であることが、このような統計でよくわかる。
県民の方にも、同じような情報を共有していただきたい。

8 ページ
奈良県の地区の動向。
3 月から、人口 10 万人当たりの感染者数の動向を奈良市・郡山保健所管内の主な都市の、奈良市・郡山市・生駒市・生駒郡などを、大阪府と並べてグラフにした。
人口 10 万人あたりだと、同じようなスケールで絵を書くことができる。
天理が飛び跳ねているのは、クラスターが発生したのが影響した。
その他の都市では、大阪の波と同調的だ。
また、4 月 5 日以降の大阪の上跳ねの波に、これらの町が同調気味だとわかる。
下がるときの同調はウェルカムだが、上がるときの同調は大変心配だ。
そのことを知っていただきたい。

9 ページ
中和保健所管内を調べた。

管内の中でも大阪寄りに位置する高田・香芝・北葛（ホッカツ・北葛城郡）は大阪との連動、波の跳ね上がり方が強いように思う。
特に最近では、北葛3町のように、大阪と連動して上がり気味なので心配だ。
身近なことの情報は、お持ちでないケースがある。
このように比較したもので、上がっているのかどうかを地元で見てもらいたい。

10ページ
ここからは、感染の類型の変化です。
感染の状況は3類型ある。
家庭・家庭外・クラスターの3類型の割合をずっとフォローしている。
令和3年の7月7日以降の類型（右端の円グラフ）では、クラスターを除く家庭外が、赤い矢印のように急増している。
左の三つは、3類型が同じような割合だ。
（右端は）クラスターの割合が減って、家庭外の割合が急増しているのが特徴だ。

11ページ
1次感染は主に大阪だ。
下の図を見ると、1次感染は昨年3月から6月は36%。
そのあと6月から7月にかけて、1次感染が大変少なくなってきた。
1次感染は県外感染で、主に大阪だ。
それが少なくなり県内感染の割合が増えていることが、先ほどの県内感染の割合が増えた数字にも表れている。
7月7日になって、急激に1次感染が増えた。
これは大きな変化だ。
1次感染である県外感染が増えたということに、注目してほしい。
ここにきて、7月7日にきて急激に一次感染が増えた。
これは大きな変化だ。
一次感染が増えたことに注目していただきたい。

12ページ。
一次（県外）感染の内訳になる。
8割が大阪関連になっている。
こうなると大阪と同調するのも理由があると推察できる。
その中で一次感染の7月7～16日の、「大阪に行ってうつされた・大阪から来てうつされた」の割合は従来から変わらないが、「行ってうつされた」は奈良の特徴。
勤務があるので行ってうつされてしまったのは多い。
行って（うつされたには）勤務でうつされたと、飲食とか遊びでうつされたの2種類がある。
これは奈良の生活スタイルの特徴。
この点について繰り返しになるが、大阪に行ってうつされた人が増えてきていることを改めて注意をしたい思いだ。

13 ページ
家庭外感染。
一次感染は家庭外感染になる。
クラスターと家庭内感染は県内感染。
一次感染が含まれるのは、家庭外感染になる。
家庭外感染の行動別は、一次も二次も同じだが、友人との交流と仕事が 2 大類型である。
大阪に行ってうつされるのと、二次の県内でうつされるは、同じような傾向だ。
大阪に行ってうつされたに当てはめると、大阪に行って仕事でうつされた、大阪に行って友人との交流・会食をしてうつったというのが、奈良県の特徴として挙げられる。
そのような類型の特徴があると改めてご注意したい。

14 ページ
家庭外感染の場所について。
事業所が 3 割を占めているのが特徴だ。
事業所の 3 割は勤務と密接で、「勤務に行って事業所でうつされた」が多い。
場所別にみると飲食店があるが、居宅も。
友人との接触が、うつる行動パターンで多い。
「飲食店に行って」も、飲食店からうつされたというよりも、会食に行って長時間付き合ったから、友人からうつされたと推察される。
居宅が多いのも、友人との会食のとき、家で話し込むことが推察される。
これは類型としては従来から出てきているが、時が変わるにつれてボリュームが変わってくるという報告だ。

15 ページ
これは新しい切り口。
円グラフの中で 60 歳以上の割合を赤で囲んでいる。
60 歳以上の割合は、だいたい 3 割から 2.5 割のレベルで進んでいた。
7 月以降は 1 割になってきている。
これはワクチン接種が進んだせいと推察される。
同じように若年の人に進むと、全体として感染者がシュリンク【*1】してくると想像できる。
高齢者のワクチン接種が進むと、進んでない人との比較で割合が減ってきていることがわかってくる。

【*1】シュリンク　→shrink：縮小。収縮。

16 ページ
デルタ株の状況。
東京の感染拡大の主役はデルタ株だと言われている。
奈良でも心配をして、デルタ株の発見に努めていた。
今までのところ、デルタ株の発見数は少ないと報告できると思う。
しかし、デルタ株は入ってくるとすごい勢いで広がるので、決して安心はできないと申しあげたい。
注意を続けたい。

17 ページ
では、大阪はどうかというと、今までの調査では大阪でデルタ株が増えていることはないと見てとれる。
東京ではデルタ株の数が増えてきているが、大阪でのデルタ株に目立った動きはない。
しかし、デルタ株のせいで第 5 波が起こっているのでなければ、どういうせいで大阪の第 5 波が
起こったのかに興味がいく。
ちょっとわからないところはあるが、奈良としては大阪で第 5 波が起これば奈良に必ず波がくるから
用心しましょうというのが、最初からのトーン【*2】だ。
以上が分析である。
　　【*2】トーン　→tone：音。物事全体から感じられる気分・調子。

18 ページ
分析を受けて、改めてフォーカス【*3】しながら、ご注意申しあげたい。
大阪において感染拡大の兆しがみられ、一次感染の割合が増えている。
一次感染のうち、大阪由来が 8 割を占めている。
これは従来からの傾向だが、この割合が極端になっている。
勤務の人もいるが、大阪は奈良の一部と思って遊びに行く人も多い奈良県なので、大阪に行くときは
寄り道せずにまっすぐ帰りましょう。
「8 時だよ。全員奈良に帰ろう。」というフレーズを誰かが言っていたが、寄り道しないでと改めて申し
あげる。
　　【*3】フォーカス　→focus：焦点。対象に照準を合わせる。

19 ページ
仕事場での感染が増えている。
出勤しないとか、テレワークが大きな要素になってくると思う。
大阪の企業のあり方になるので、大阪に通勤しないで奈良で仕事をするとなれば変わってくると思う。

20 ページ
友人との交流は楽しみでもあり、常時そういうことが起こる。
オリンピックが始まると、東京では会場に行かないで、地方ではテレビを観ようよ（となる)。
テレビを観るとき、友達と観ると居宅での感染が想像できる。
パブリックビューイング【*4】に行かなくても、居宅での観戦が増える可能性がある。
ちょっとつまらないかもしれなあいが、テレビを観るときもマスクをして、テレビの方をずっと観る、
そんな注意が必要だと思う。
盛り上がりに水を差すことになるが、注意してほしい。
　　【*4】パブリックビューイング　→public viewing：スタジアムや公園・広場の特設会場などに
設置された大型スクリーンで、別の会場で行われているスポーツの試合を観戦すること。

21 ページ
家庭内でも友人との感染だけではない。
家庭内で感染しても収まっても家庭の人だけだが、家庭内の感染に気付かずに家庭外に行き、友人との接触、
学校での接触でクラスターになるケースが出ている。
これは個人の注意・配慮で防止できる。

個人それぞれの注意により、防止している家庭としていない家庭があるので、是非、注意を今一度お願いしたい。

22 ページ
オリンピックが始まり、夏休みがあるが家族で過ごすこと。
県内は安全な場所が比較的多い。
大阪由来の一次感染を持ち帰らないで。
大阪へ家族で行ってうつされないようにということだ。
帰省で奈良に帰って来る人もあると思うが、気をつけることが感染拡大防止に繋がっているので、是非、気をつけていただきたい。
このような時期の、改めてのお願いを申しあげたい。

23 ページ
ワクチン接種が絶対的な決め手ではないが、接種をすると高齢者は感染の率が低くなる傾向がある。

24 ページ
これは新しいデータです。
前回は高齢者の 1 回目の接種のランクを示していたが、今回は全対象者の接種状況です。
このような統計が出始めた。
全対象者の全国順位で、奈良県は全国平均よりも上で、20 位。
近畿の例だと、和歌山が 3 位。
奈良県は 2 番目で、兵庫がその次、京都、滋賀、大阪が全国平均より低くなっている。
東京都、沖縄県、埼玉県、千葉県、愛知県、神奈川県など、流行っているところの接種状況が低い。
どちらが原因か結果なのかわからないが、そのような状況になっている。
ワクチン接種をすすめて感染を抑止するのが、大きな課題になるのも分かる。

25 ページ
奈良県の全対象者のワクチン接種状況を右に書いてある。
左が 65 歳以上で、右が 65 歳未満。
この円がどんどん広がってくるように期待している。
これを合わせたのが全人口で、24 ページの数字になる。

26 ページ
市町村別 1 回目のワクチン接種済み者のランク。
65 歳以上の接種率の順番で、香芝市が 1 番低い。

27 ページ
市のワクチン接種状況。
高齢者と全年代に分けてあるが、これからは全年代のワクチン接種率の競争になってくると思う。
右のグラフのように、市レベルでも差があり、1 番の宇陀市が約半分打っておられる。
御所市は 4 割、香芝市は 2 割、高田市は 4 分の 1 といった状況になっている。
これも日々報告したい。

28 ページ
町では、高齢者のワクチン 1 回目はほとんど終わっていて、2 回目がどんどん上がってくると思う。
全年代の 1 回目ワクチン接種は右のグラフで、一番低い斑鳩町でも 3 割ぐらい。
進んでいる吉野町では 5 割ぐらいになっている。

29 ページ
村では、高齢者のワクチンは、ほぼ終了状況にある。
全年代でも上北山は 1 回目が 84%になっている。

30 ページ
市町村のワクチン接種率の状況。
全年代の接種率の順番に書いてある。
市は平均で 28%、町は 34%、村で 62%。

31 ページ
県の広域ワクチン接種会場。
前回は奈良会場だけが認められたという報告であったが、申請をしていた橿原市周辺会場でのワクチン供給が認められた。
8 月上旬からの予約開始で、8 月中旬からの接種を始めたいと思う。
広域接種の概要は、福祉・医療・教員等が優先であるが、一般の方々へも優先を超えて提供する機会を設けたい。
ワクチンの総供給量は、5 万 1000 回分。

32 ページ
高齢者接種の完了団体が、町も出てきて、11 団体になった。

33 ページ
64 歳以下への接種券の発送状況。
100%の発送が増えてきている。
14 市町村では、12 歳から 16 歳が未発送で、発送率に差がある。

34 ページ
医療提供体制の確保。

35 ページ
日々報告をしているが、簡単に紹介をしたい。
従来から、重症対応は抜け目なくしている状況である。

36 ページ
重症患者は 1 床の使用だけで、占有率は 3%。

37 ページ
医療機関。

38 ページ
入院病床。
昨日の段階で 80 床、占有率は 21％。

39 ページ
提供医療機関。

40 ページ
宿泊療養有施設の占有率。
69 室で、占有率 10％のレベルです。

41 ページ
医療提供については、現在ではまだ余裕があるが、第 4 波のときは急激に上がったので、医療提供体制が追いつかなくてあふれてしまった。
4 波と違うところは、ワクチンの接種が進んで、抑止力になるのではないかという期待もあること。
ワクチンの接種と、感染者の増加傾向と、両にらみで注意を払っていきたいと思う。
県民の方には、感染者の動向についての情報を知って、情報共有してご注意いただきたい。
報告は以上です。
ご清聴ありがとうございました。

司会／有難うございました。
ただいまの報告にあった、「新型コロナウイルス感染症対策の新たな展開」に関して質問のある方は挙手でお願いします。

NHK／オイカワです。
ワクチン接種について。
直近の目標は、7 月中に高齢者の接種を完了したいということだったと思う。
現状、県内の自治体で、この目標は達成できると見込んでおられますか。

知事／私から見ると心配な市町村もある。
担当から市町村に聞いているが、全市町村で達成できると言っているようです。
市町村を信頼して、全高齢者は 7 月中にできる(と見込んでいる)。
一つの町だけ、会場の予約が 8 月 1 日になったという報告があった。
8 月 1 日でも 7 月中ということに、認めてあげて頂ければと思う。
それ以外は、全高齢者に接種できると言っているようだ。
市が一番低い。
例えば奈良市は、27 ページ目の表のように、高齢者の接種は、2 回目 47％。
7 月中というとあと 10 日ぐらいだが心配です。
大丈夫だろうかと県の担当と心配しているが、市のご当局は大丈夫だと言っている。

駄目だという証拠もないので、結果を待つしかないと思う。
現在、10 日を残して 47%。
登録をしていないだけで、もっと(打っている)とも言っておられる。
それならそれでいいが、心配です。
選挙が終わったから気が緩むわけではないと思うが、どんどん打っていただきたい。

記者／ありがとうございます。
それから今後は、もうちょっと若い世代の接種を進めていくと思う。
打ち手の確保が従来から課題でしたが、研修医の皆さんはおそらく 7 月中で一旦終わりになると思う。
その後の人手の確保を、県としてはどうケアをしていくのか。
あるいは大規模会場によって、市町村の負担を減らしていく考えなのか、そのあたりを教えていただけますか。

知事／高齢者の次の、全年代の接種ですが、秋に終わる目標を国でも県でも立てている。
その見込みと進み方だが、どこから打ちだすのか、どういう体制で打つのかは、市町村でやるのと、大規模接種、職域接種の 3 本立てになる。
全年代になると、市町村が先か、エッセンシャルワーカーが先かということも、だんだんこんがらがってくる。
とにかく一斉にたくさん打ちましょうという状況に、すぐになってくると思う。
だから、とにかく打ち進めてくださいというのが、私の気持ちです。
秋には全年代で、2 回目を完了するようにと願っている。
どちらが先かと言っている暇がなくなってくると思っている。
国は、最初に細々打っていたときは、医療従事者から打ちましょう、高齢者から打ちましょうということだった。
今、国も若い者から打ちましょうと、職域も大規模(接種)も入れ始めた。
誰に打つかは、ある程度地方で考えてもいいと、緩んだ感じになってきている。
そうなると、優先順位よりも、ファーストカム　ファーストサーブドで、早く手を挙げて打ちたいという方歓迎、というやり方に近づいてきていると思う。
今までは、打ち手が少ないが大丈夫かと言われていた。
今、奈良県でも打つ体制は、相当勢いがついてきている。
あとはワクチンの供給量というボトルネックはどこにあるか(になる)。
戦争に例えると、銃を撃つ人が不足しているのか、銃の数が不足しているのか、弾の数が不足してるのかになる。
今までは弾はあるが、銃の数が見えないと言われていた。
ところが、銃を撃ちだすと弾が来ないという状況になった。
銃の撃ち手と弾の両方が、溢れるようになるのが望ましいと思う。
今は弾がちゃんと来るかどうか心配、という補給の話が日本国中を覆っている。
補給は国の責任ですので、補給を遺漏なきようにしてください。
地方は撃ち手の責任をもっている。
撃ち手についてはこのような状況ですので、そこそこ大丈夫だと思う。
どこに撃つかは、左ばっかり撃っていたけど、右でも撃つようになった状況でもある。
とにかく全部、平らげるのが今の目標だと思っている。

記者／今、弾の補給が心配であるというお話がありました。
現状、県内でワクチンが足りなくなりそうだとか、実際の接種に滞りが出るような事態は、何か把握していらっしゃいますか。

職員／県内で、ワクチンが足らなくて打つのが止まるようなことは出ていません。
前々回、配分方針でお示ししたように、(接種の)進んでるところには、(配分が)多くなるようにしながら、途中何かで足らなくなるときは、融通しあうよう、県下一円、市町村と一緒に取り組んでいる。
今、そのような状況が出ていません。

記者／ありがとうございました。

毎日新聞／クボです。
知事は前回、確か7月10日にワクチンを接種されるとおっしゃっていました。
ワクチンを接種した感想なり、体調の変化なりあれば(言ってください)。
あと2回目はいつ打たれるのか言ってください。

知事／私のこと？
先週かな、打ちました。
左手に打ったら1日だけだが、ちょっと硬くなった。
1日で済みましたが、そんなに(腕が)上がらないということじゃなかった。
家内も同じような感じだと言っています。
熱は出たことはありません。
2回目は7月末。
7月中にはと、思っています。
私の場合、あまり外に行きません。
このような状況の中で、相当ケアをしていただいているので、感染リスクは低い方だと思う。
遠慮したわけでありませんが、打つタイミングはそのようになった。
2回目の状況も、お問い合わせがあれば、熱が出たとか、異常があれば報告させていただきます。
今のところ、異常はなく、このように元気で過ごさせていただいている。

司会／よろしいでしょうか。

共同通信／サカイです。
この休み期間中あたりに、菅総理が10月から11月までの早い時期に、ワクチン接種を希望する全ての方の接種を終えたいと、テレビ番組で話し、ニュースになっていた。
発言の読み取り方からすると、11月までの早い時期に、接種を終えたいとなっています。
奈良県としての接種完了目標も、今知事は秋とおっしゃった。
確か11月中だったと思う。
この(総理の)発言によって計画が前倒しするとお考えでしょうか。

知事／ワクチン接種は11月中と決めていても、打てるのにわざと遅らせる必要はない。

早く打てれば早く打つに、こしたことはない。
遅くとも10月とか11月中に、国民全部に打ちましょうという体制できている。
奈良県でも早く打てればそれに越したことはない。
ネックになりそうなのは、打ち手と供給量だったが、今のところ、供給があれば相当前倒しできるかも
知れないと思っている。
24ページ目のように、1回目の接種率は31%だが、総年代の接種が進めば1回目を100(%)にして、
2回目を上げていく。
今7月末だが、今までのペースだったらどれくらいか、机上の計算はできる。
ワクチンの打ち手の方は安定しているが、ワクチンの供給量は波をうつかもしれない。
確定供給までいっていない、不確定要素だと思っている。
どんどん入ってくると、どんどん打ってもらおうと思っている。
前倒しの可能性は、そこそこある。
前倒しできたらしたいと思っています。

司会／よろしいでしょうか。

朝日新聞／ヒラタです。お願いします。
すいません。弾と撃ち手の話に戻っちゃって恐縮です。
広域接種会場の方ではワクチンの供給量は一応確定しているように資料から見れる。
合わせて5万1000回分が届くということで、こちらの供給はわかっている。
ここの会場の打ち手は、今どのように考えられていて、すでに確保できているのか教えていただけますか。

知事／ちょっと医療部長から。

職員／ワクチンの大規模接種会場の打ち手についてご質問いただきました。
そちらにつきまして病院協会の方とご相談させていただいて、現在、人の確保にご協力いただいている
ところです。
具体的な人数等については調整中の段階ですが、基本的には確保していただけるということで調整して
いる。

記者／ありがとうございます。
それと、不確定要素としてワクチンの供給量があるが、入ってくるならどんどん打ちたいというご発言が
あった。
どんどん入ってくることがわかって、弾の心配はしなくていいとなった場合に、今度は撃ち手を増やさない
ということになると思う。
研修医の方は7月末で研修プログラム上、もう打ち手になることはできないということ。
その後、打ち手に関してどういうことをお考えですか。

知事／打ち手ですか。

記者／ワクチンがどんどん入ってきた場合に、今度は打ち手を増やさないといけなくなる。
その場合に、どういった形で打ち手を確保されますか。

職員／高齢者接種については研修医がかなり活躍され、打っていただきました。
それと並行して、市町村の個別接種で開業医の方へのご協力をかなり進めておられる。
先々も見据えてそういう体制を組んでいるところが多い。
あと、医師のマッチングサイトの活用をされる市町村がある。
いろんなツールが出てきているので、市町村で足りないというお話があれば、相談にはのっていきたいと思っている。

記者／ありがとうございます。

司会／その他いかがでしょうか。
コロナ対策の関係で、ご質問いかがでしょうか。
よろしいでしょうか。
それではその他のご質問も含めて、ご質問のございます方は挙手にてお願いします。

読売新聞／ツチヤです。よろしくお願いします。
「いまなら。キャンペーン」のことです。
先日、県内の宿泊業界とか旅行業界の団体からの要望書が提出されたと思う。
県としては早期実施の考えはあるか、お聞かせ願えますでしょうか。

知事／今日の資料見ていただけますと、おのずから答えがわかると思う。
このように(感染者が)増えてきているときに、これを見てどのように反応されるか。
市民の方は、感染が増えると怖いな、しかし経済も元気になればいいなと両方の願いを持っておられる。
奈良県は、酒類の販売停止もしませんでした。
時短も一時で、あまりしませんでした。
飲食店は、あまりいじめなかった感じはする。
大阪近隣なので影響は甚大に受けていますが、飲食店クラスターはあまり発生しなかった。
しかし、大阪の状況が今日の報告で、このような状況。
それでもまだ、市民が「いまなら。」をしたいと言われるのかどうか。
大分疑問に思う。
慎重な判断をしたい。

記者／先ほど、夏休みは県内で過ごそうということがあった。
これは旅行とか宿泊というよりも、自宅でということになるのでしょうか。

知事／自宅で？

記者／県内で観光とか宿泊するよりも、自宅にいましょうと？

知事／そうですね、いろんな言い方や見方があると思う。
観光とか飲食を自粛してくださいと、あまり積極的に言ってこなかった。
気をつけて行ってらっしゃいねと(言ってきた)。

行くときに、わざわざうつりそうなところに行かないでねという気持ちがある。
奈良県の生活パターンは、わざわざ南に飲みに行く人はいないですね。
大阪に近いところは、飲みに行くなら西向いてという風習がある。
大阪から奈良に飲みに来られる方は、ほとんどいないのが実態なんです。
だから、まん延防止はあまり意味がないと思われた。
いつも、飲みに行っている場所は危ないですよと、繰り返し繰り返し注意申し上げてきた。
自宅にいなくても、安全なところで飲んだり、宿泊をされるのはいいのではないかと申し上げている。
宿泊自粛・飲食自粛ではなく、気をつけて気をつけてと、改めて申し上げたい。
そのときに、プロモーションかけると、安心だから、それ行きなさいというパターンがあるので、
そこまではちょっと難しい。
では家かと言われると、その中間に、気をつけて行ってらっしゃいというパターンがあると思う。
気をつけてというのは、行く場所に気をつけて、行動パターンにも気をつけてということになる。
奈良は、どちらかというと、飲食も宿泊も散歩の場所も、比較的安心なところがある。
ここに行けば大丈夫という保証はできませんが、大阪に行くより安全じゃないでしょうか。
しかし、大阪に行かないで桜井とか高田でも、飲食クラスターが発生した。
そのような店は避けて、認証制度がある店は比較的安全度が高いんじゃないかと、お勧めしたい。
勧めるのもまた語弊があるかもしれないが。
自宅(にいないといけない)かと言われると、そういう(認証)店もありますよと、ちょっとだけでも言いたい。

記者／ありがとうございました。

司会／その他にご質問いかがでしょうか。

時事通信／ハマです。
東京オリンピックについてお伺いしたい。
ほとんどの会場で無観客での開催が決まりました。
知事としては観客を入れることに肯定的だったと思うが、受け止めはいかがでしょうか。

知事／オリンピックの開催はもういいですね。
やることになった。

記者／開催は、もちろん肯定的ですね。

知事／無観客について。
無観客にするというのは、どういう根拠で言われたのかなと、素人ですけど、そういう感じはある。
バッハさんが観客を入れてもいいんじゃないかと言われて、反発があった。
あまりそういうところに参戦したくない。
前向いて静かにしていてもうつるのかな。
専門家は、それでもうつるという証拠を、なるべくわかりやすく言っていただけたらいいのになと
思ったりする。
テレビを観て不思議に思うのは、アメリカで感染者がすごく多いのに、大谷選手のオールスターとか、
大谷選手の出るロサンゼルスの野球スタジアムは満員なこと。

ああいうことができて、ワーワー騒いでいる。
アメリカは結構、まだ感染者が残っていると思うんだけど。
アメリカで野球を見ると、ワーワー騒げるのに、東京に行ってオリンピックを観ると、観客いない。
どう説明するのかなと興味は持っている。
持論を述べるほど専門家ではないし、プロでもありませんが、素人（としてこのような）の印象を持ちます。

司会／よろしいですか。
その他にご質問いかがでしょうか。

（以下、コロナ関連ではありませんので、省略します。）・